ホイスコーレ札幌への期待

川崎一彦（東海大学国際文化学部教授）

北海道東海大学大学院国際地域学研究科を2008年3月に修了された生越玲子さんが、ご自身が留学されたデンマークのヘルネス・ホイスコーレなどを参考にし、社会人を対象にした生涯学習のための社会人カレッジ「ホイスコーレ札幌」を開校されました。

東海大学国際文化学部はフィールドワークを重要な特色の一つと位置づけています。「座学を実践へと結びつける」指針のもとで「フィールドワークを重視」しています。

私自身もこのコンセプトに全面的に共感し、本学部のフィールドワーク第一号としてのノルウェー・テレマーク大学大学祭参加(2005)をはじめ、下の例のように多くのフィールドワークに取組んできました。私のフィールドワークやインターンシップでは、グローカルな視点(北欧をヒントに地域で行動する)で、到達目標を、創造性と自己効力感と設定し、ある程度の効果は得てきたと自負しております。

Hokkaido Style in Sweden 2006
当別＝レクサンド姉妹提携20年記念交流支援(2007)
支笏湖氷濤祭活性化支援(2006-2007)

生越玲子校長のホイスコーレ札幌プロジェクトは、このような「座学から実践」の模範ケースでもあります。

私はホイスコーレ札幌に以下のような理由でも大きな期待を持ち、これからも全面的に支援させて頂きたいと考えております。

1) 地域の社会人の方々に対して：学ぶ機会の提供
2) 大学にとって：地域の方々との交流の機会
3) 大学生にとって：モチベーションの高い社会人の方々との交流のチャンス
4) 生越玲子校長の後輩にとって：活躍される先輩としてのロールモデル

閉塞状態の日本は多々の社会経済問題を抱えています。

しかし、すべての国民が真剣に学び、そして解決方法を共に考えれば、将来は明るい兆しが見えてくる、と私は確信しています。

ホイスコーレ札幌における受講生の皆さんの毎回の真剣な眼差しとご発言に触れるたびに、その確信を一層深くさせて頂いています。

ホイスコーレ札幌の生越玲子校長先生、スタッフの皆様、受講生の皆様、一緒に地域の問題を考え、生越玲子校長ご自身が示されたように「座学から実践」を目指して行こうではありませんか。